華厳経・入法界品をカウンセリングの心で読む

『ひびきあう心』（大須賀発蔵 茨城カウンセリングセンター）参照

克服の過程

①　衆生の所従生を知る陀羅尼門
（苦悩する人が辿っている生きざま
―所従生―　を、共に理解することの真実）

②　衆生の煩悩行を知る陀羅尼門
（生きざまを理解するだけではなく、
それがいまここでの苦しみ
―煩悩行―　であることを、共感する真実）

③　煩悩習気を知る陀羅尼門
（苦悩する人には、すぐそれを抜け出せない心の勢い
―習気―　がある。そのどうにもならなさを
深く受けとめながら、共に歩く真実）

④　煩悩方便を知る陀羅尼門
（やがて苦悩こそ人生に新しい光を見出し、
深い洞察力を獲得するために与えられた
救いの手立て　―方便―　であったことに気づく真実）

⑤　衆生の解を知る陀羅尼門
（こうして、苦しみが救いの手立てであったと
気づくところまで辿り抜いたとき、心はようやく
解きほぐされる。その喜びを共にすることの真実）

⑥　衆生の行を知る陀羅尼門
（心が解きほぐされると、おのずから健やかな
行動が生まれてくる。そこを共に歩む真実）

⑦　行の不同を知る陀羅尼門
（健やかな行動は一人一人異なるいのちの色を
生きることであり、独自な人生を創造する
ことにあると理解して、共に歩む真実）

⑧　衆生の性を知る陀羅尼門
（それぞれ独自ないのちを存分に生きる
ことが、そのまま本来平等な宇宙の
大生命を共に生きることだと知る信実）

⑨　衆生の欲を知る陀羅尼門
（自分の人生を独自に生かしながら、さらに他者との
平等な命を共感し、愛をわかち合おうと願うとき、
健やかな欲求が湧いてくる。それを生かす真実）

⑩　衆生の想を知る陀羅尼門
（健やかな意欲が湧き出すことに応じて、健全な想念が拡がっていく。
そこに地に足のついた現実的営みが豊かに展開する真実。）

成長の過程